

本庁舎等整備工事News < v。1. 4>



小型重機 ←大型掘削重機にて、 土をつかんでいる

構台の下では、小型重機を使用して 掘削し、土を集めます。

ではないんだね!

穴を掘るための「仮りの設え」 であって、新庁舎の柱や梁

構台の上では、大型掘削重機を使用 し、土をダンプ車に積み込む作業を 行っています。

> 2022年4月 世田谷区 庁舎整備担当部 庁舎建設担当課

東棟

令和4年4月時点で、東棟において、深いところでは約10m前後を掘削しています。令和4年5月末を目標に、最大約17mまで掘り進める予定です。



地下工事を安全に進めるため、以下に示す部材を工事進捗に併せて設置します。①~③の各部材にはセンサーや計測メーターを設置しており、常時、工事現場の状況を確認・把握し、作業を進めています。(最終ページの航空写真も併せてご覧ください)



①火打ち梁(ひうちばり) 切梁等、山留部材の接合部を補強 するため、斜めに入れる部材。

②切梁(きりばり) 土圧を支えるため、掘削深さが 一定を超えると必要となる。 突っ張り棒の役割を果たす。

③棚杭(たなぐい) 切梁・火打ち梁の上下方向への 変位を拘束する。

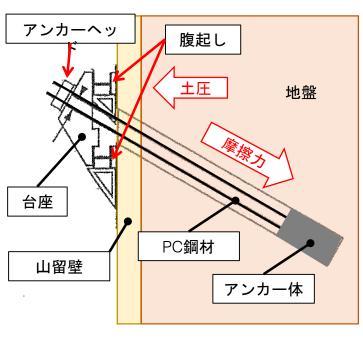
西棟

西棟についても、掘削作業が進んでいます。令和4年4月時点で、深いところでは地下約5mまでの掘削が完了しています。東棟と同様に、地下約18mまで掘削工事を行うため、構台の設置作業を進めています。(左下の写真)



アースアンカー工法とは、地盤との摩擦力により、山留に必要な耐力を得る工法です。切梁等が不要となるので、地下における作業空間を大きく確保することができ、重機による掘削作業を効率よく行うことが可能となります。





法律順守 • 安全対策

さまざまな安全対策を講じて安全第一に工事をすすめています。

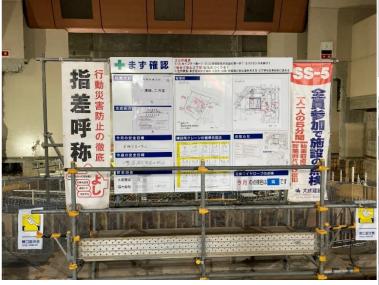
掘削した土を場外に運搬する際は、 トラックの総重量をトラックスケール にて計測し、過積載でないことを確認 しています。 (右の写真)





禁止エリア、作業通路エリアを明確に 色で区画分けし、事故の防止に努めてい ます。

作業通路エリアには、分かりやすいよう にフェンスによる区画とサイン表示をし ています。 (左の写真)



毎週金曜日には、工事現場周辺の道路清掃や植栽 の手入れなどの美化活動を行っています。

(右の写真)

作業通路 WORK PASSAGE

朝礼では、全作業員が一同に集まり、一日の作業 内容を全員で確認し、安全第一の作業を徹底して います。(左の写真)







作成 世田谷区庁舎整備担当部庁舎建設担当課

〒154-8504 東京都世田谷区世田谷四丁目 2 1 番 2 7 号

電話: 03-5432-2986 FAX: 03-5432-3006

協力 大成建設株式会社東京支店